

令和6年度 第2回八尾市芸術文化振興審議会 会議録

- ・日 時：令和7年3月18日（金） 午後6時～午後8時
- ・開催場所：八尾市商工会議所3階 多目的室
- 【出席者】 敬称略
- ・委員：藤野（会長）、大久保、緒方、鈴木、玉置、萩原、松井
- ・事務局：杉島、古川、松村、川下（文化・スポーツ振興課）
- ・八尾市文化振興事業団：北芝
- ・株式会社地域計画建築研究所：江藤
- ・傍聴者：0名

事務局より配付資料の確認。

- ・次第
- ・八尾市芸術文化振興審議会委員名簿
- ・八尾市芸術文化振興審議会規則
- ・会議の公開に関する指針
- ・八尾市情報公開条例（抜粋）
- ・資料1 やおうえるかむコモンズ推進会議の主な取り組みについて
- ・資料2-1 高校合同文化祭 実施報告
- ・資料2-2 高校合同文化祭 アンケート集計結果
- ・資料2-3 まちかどライブクリエイション 実施報告
- ・資料2-4 まちかどライブクリエイション アンケート集計結果
- ・資料3 八尾市芸術文化振興審議会委員による事業視察アンケート
- ・資料4 令和6年度八尾市文化会館実施事業一覧
- ・資料5 やおうえるかむコモンズ推進会議 体制の再構築
- ・資料6 その他報告事項
- ・各種チラシ

1. 開 会

- ・文化・スポーツ振興課 杉島次長よりあいさつ。

本日、本年度2回目の審議会ということで、やおうえるかむコモンズ推進会議が実施したまちかどライブクリエイション、高校合同文化祭の報告や、今年度から実施したアートコーディネーター養成講座や、ポータルサイトの開設、またプリズムホールの事業についても報告する。委員の皆さんの奇譚のない意見をお願いしたい。

また、魅力創造部長が本日、議会の関係で欠席している。委員の皆様によりしくお伝えするよう言付かっているので、お伝えする。

- ・出席者の紹介。
- ・会議の定足数の確認、会議の公開、傍聴について説明。

2. 案 件 八尾市の芸術文化振興の取り組みについて

(1) やおうえるかむコモンズ推進会議の主な取り組みについて

事務局及び江藤氏から、資料1、2-1から2-4に基づき、説明、報告を行った。

■八尾市芸術文化推進基本計画の7つの施策に基づく取り組み（資料1のP1）

やおうえるかむコモンズ推進会議は、八尾市芸術文化推進基本計画の7つの施策に基づき、様々な取り組みを行ってきた。この中から、主な取り組みについてご報告する。

■高校合同文化祭（資料2-1）

今年度の高校合同文化祭については、昨年度に引き続き、プリズムホールでの作品展示、シルキーホールでの軽音ライブを実施したほか、アリオ八尾光町スクエアでのダンスや吹奏楽、ギターのパフォーマンス、八尾おゆばでの書道パフォーマンス、箏（こと）やアコースティックギターの演奏、将棋ブースの設置、及びオンライン展覧会を実施した。

八尾市内の全6校が参加し、昨年度より多くのクラブにご参加いただいた。また、今年度は、中学生にも参加枠を拡大したことで、中学生の作品展示や中学生バンドの参加につながった。

次に、実行委員であるコモンズサポーターについて、今年度から手上げ方式に変更し、各校から参加してくれたメンバーとOBで話し合いながら企画検討を進めていった。

また、コモンズサポーターは、会議だけでなく、イベント当日の会場の設営準備及び撤収作業、会場内警備、取材対応、来場者へのアンケート調査の実施、会場でのMC等、多岐に渡って役割を果たしてくれた。

さらに、コモンズサポーター会議の中で、新たな広報手段のツールとしてSNSの活用が提案されたことから、高校合同文化祭の公式Instagramアカウントを開設し、より積極的な広報に取り組んでいるところである。

各会場の実施状況は次のとおり。

・プリズムホール

11/9（土）～11/14（木）にかけて、全6校の作品展示を行った。

・アリオ八尾光町スクエア

今年度初めて実施した会場で、11/10（日）に、金光八尾高校吹奏楽部、創作ダンス部、八尾高校ギター部、ダンス同好会、八尾北高校ダンス部によるパフォーマンスを行い、観覧者数は約400人であった。

・シルキーホール

11/16（土）に八尾高校・八尾翠翔高校・山本高校の軽音楽部、中学生バンドのStay Greenによる軽音ライブを実施し、観覧者数は約350人であった。

・八尾おゆば

今年度初めて実施した会場で、まちかどライブクリエイションとの合同会場である。

11/17（日）に金光八尾高校将棋部による将棋ブースの設置、邦楽部による箏（こと）の演奏、八尾高校書道部による書道パフォーマンス、山本高校アコースティックギター部によるギターの演奏を実施し、観覧者数は約100人であった。

・オンライン展覧会

11/1（金）～11/30（土）にかけて、今年度初めてオンライン展覧会を実施した。
出展者数は8人で、総閲覧数は713回であった。

協賛・協力については、今年度も昨年度に引き続き、シルキーホール様にご協賛をいただいた。また、合同会社ブランクマップ様に話し合いの場として、コワーキングスペース Nutsをご提供いただいたほか、八尾市文化振興事業団様には作品展示に係るご協力をいただいた。また、八尾おゆば様、アリオ八尾様にはパフォーマンス会場をご提供いただき、八尾おゆば様には割引券をご提供いただいた。

次に、次年度に向けて、出演者、教職員にアンケートを実施した。

良かった点、悪かった点や改善点、また、やってほしい企画について、様々なご意見をいただいた。

また、コモンズサポーター会議で、KPT法による振り返りを行った。継続して行っていくこと、課題、挑戦してみたいことについて、様々な意見が出された。

最後に、施策への寄与について、施策② 芸術文化につながる機会の提供については、不特定多数の方が往来するアリオ八尾光町スクエアでの実施など、身近な場所で実施したことにより、市民の誰もが気軽に芸術文化に触れることができる機会を提供した。

施策④ 自由な芸術文化活動のための環境の整備については、八尾おゆばやオンライン展覧会の実施により、発表や創造活動ができる新たな場所の掘り起こしにつなげた。

施策⑤ 芸術文化を通じた子どもの育みについては、複数の高校によるパフォーマンスにより、参加した高校生が刺激を受けるとともに、コモンズサポーターの経験により、会議で自らの意見を発言し、意見交換することなどで、生徒の成長につながった。

■まちかどライブクリエイション（資料2－3）

今年度は、昨年度よりも開催場所を拡大し、八尾市内の様々な場所で開催した。これには狙いがあり、令和10年度の開催をめざす「（仮称）八尾まちかど国際芸術祭」の開催に向け、八尾市内で開催場所の開拓を進めること、また、市民の誰もが、市内の様々な場所で芸術文化に触れることができる機会の提供を図ることをめざして開催場所を広げてきた。

各イベントについては、次のとおり。

・ナイトマーケットwith芸術文化音楽祭

9/14（土）、10/13（日）に新田ゼラチン株式会社 大阪工場グラウンドで実施した。

これまで久宝寺緑地等で16回開催し、累計20万人以上の来場者数を誇るエシカルフェスタがタッグを組んだ、ゾクゾクワクワクするイベントとして、音楽、ダンス等のステージ、キッチンカー、ワークショップ等を行い、来場者数は9/14が約3,000人、10/13が約1,800人であった。

・ダンサー・イン・レジデンス八尾「ふうりん劇場」

10/13（日）にTOMOI R&Dで実施した。八尾の町工場を題材にしたパフォーマンスとして、志紀駅から工場まで参加者とともに歩いた後、工場での即興のパフォーマンス等による

パーティーを行い、来場者数は約 200 人であった。

・ひらいマルシェ

10/27（日）に株式会社平井製作所で実施した。ぽん酢も作る金属加工会社で、楽しい催しや美味しいものが沢山のマルシェを開催！ということで、シャッターアート、読み聞かせ、舞、キッチンカー、ワークショップ等を行い、来場者数は約 400 人であった。

・エシカルフェスタwith芸術文化音楽祭

11/3（日）、11/4（月・祝）に新田ゼラチン株式会社 大阪工場グラウンドで実施した。

エシカルフェスタとやおうえるかむコモンズがタッグを組んだ老若男女問わず楽しめる大規模フェスティバルとして、音楽、ダンス等のステージ、キッチンカー、ワークショップ等を行い、来場者数は 11/3 が約 800 人、11/4 が約 1,000 人であった。

・きんやおマルシェ まちかどライブクリエイション

11/4（月・祝）、12/8（日）に近鉄八尾駅前噴水広場で実施した。音楽LIVEや生花ライブパフォーマンスを中心にアートなマルシェを開催ということで、音楽ライブ、キッチンカー、ワークショップ等を行い、来場者数は両日とも約 300 人であった。

・かやふりフェスタ

11/10（日）に萱振御坊 恵光寺で実施した。ふらりとアートとお祭りが楽しめる！八尾北部の中心地、萱振御坊 恵光寺でのイベントとして、ライブペインティング、キッチンカー、フォトスポット等を行い、来場者数は約 200 人であった。

・高校合同文化祭&まちかどライブクリエイションin八尾おゆば

11/17（日）に八尾おゆばで実施した。まちかどライブクリエイション 2024 で唯一の高校合同文化祭とまちかどライブクリエイションの同時開催会場として、音楽ライブを行い、来場者数は約 100 人であった。

・つながるなかまinフェスタ

11/17（日）に地域共生空間つながりで実施した。お年寄りから子どもさんまで誰でもいつでも自由に来られ、自由に過ごせる場所、自由に立ち寄って休憩ができる場所である「つながり」で、音楽ライブやダンスパフォーマンスなどを行い、来場者数は約 100 人であった。

・茶吉庵の秋まつり

11/23（土）、11/24（日）に茶吉庵で実施した。ワークショップあり、マルシェあり、音楽あり、ダンスあり、お話し会ありの盛りだくさんな企画を行い、来場者数は2日間合計で約 400 人であった。

・SANKARA Marche（サンカラマルシェ）～10 歳若返り・美と健康～

11/24（日）にCafe SANKARAで実施した。美と健康を意識した飲食やワークショップ、ハンドメイド物販などを行い、来場者数は約 300 人であった。

また、同時開催企画として、アートコーディネーター養成講座受講生との共同企画である八尾妖怪スタンプラリーを行い、参加者数は約 100 人であった。

・愉快的仲間の秋のサロンコンサート

11/24（日）にTSUTAYAリノアス八尾店で実施した。聴き馴染みのある曲を温かい音色でお届けするということで、クラリネット、ギターによるコンサートを行い、来場者数は約 50 人であった。

また、同時開催企画として、アートコーディネーター養成講座受講生によるしおりフェスタを行い、来場者数は約 70 人であった。

・オリジナルヘアアクセサリー作り

12/8（日）にTSUTAYAリノアス八尾店で実施した。アートコーディネーター養成講座受講生による企画として、ヘアアクセサリー作りのワークショップや販売を行い、来場者数は約 100 人であった。

・オンライン展覧会

11/1（金）～11/30（土）にかけて、オンライン展覧会を実施した。出展者数は 17 人で 29 作品、総閲覧数は 1,330 回であった。

次に、施策への寄与についてであるが、主なものとして、施策② 芸術文化につながる機会の提供については、市内 10 か所の特性の異なる様々な場所で開催したことで、身近な場所で、市民の誰もが気軽に芸術文化に触れることができる機会を提供した。

施策④ 自由な芸術文化活動のための環境の整備については、新たに、市内の様々な場所（お風呂屋さんやお寺、オンライン展覧会等）で発表や創造活動ができる場所を掘り起こすことで、創造活動を支援した。

施策⑥ 芸術文化を通じた地域の活性化については、地域資源を活用したイベントを実施することにより、地域の活性化につなげた。

■アンケート集計結果（資料 2－2、2－4）

資料 2－2、2－4 のうち、A 3 の概要版を使い説明する。ホチキス止めしているものは詳細版なので、お時間のある時にご覧いただきたい。

一つ注意点として、高校合同文化祭、まちかどライブクリエイションの両方に言えることだが、アンケートを回答してもらえる方をお願いしているので、会場によってばらつきがあり、まちかどライブクリエイションでは出演者のファンの方に多く回答してもらっているため、どちらかというところのイベントについて好ましく思っている方に回答いただいているという偏りがあることについて、注意して見ていただければと思う。

まず高校合同文化祭から説明する。今回、126 名の方から回答いただいた。回答者の年齢は、51.6%が「10 歳代以下」となっており、高校生で見に来た方もいるが、保護者等大人の方も半分くらい見に来ていただいた。

性別については、約 61%が「女性」であったが、一番回答の多かった 10 代で言うと、「男性」と「女性」が半々であった。

お住まいについては、56.3%が「八尾市内」、42.1%が「大阪府内」となっており、高校生も八尾市外から通っている方も多いことから、このような結果になったと考えられる。

情報源については、「家族・友人・知人に聞いて」が 73.0%であった。単純比較はできないが、昨年度も同じ設問で聞いており、その時は 47%だったので、非常に増えている状況だ。「その他」も 14.3%だが、部活や学校から聞いてという回答で、ほぼロコミだったので、ほとんどの皆さんがロコミで参加していることがわかる。

ご来場いただいた日程・会場については、シルキーホールが 68.3%で、7 割くらいがシルキーホールでアンケートに回答いただいた方々ということだ。

イベントの満足度については、「非常に満足」が67.5%、「満足」が28.6%で、合計が9割以上となっており、昨年度も同じようなアンケート結果となっている。

今後も八尾市内でこのような芸術文化の機会があれば、鑑賞したいかについては、「鑑賞・参加したい」が88.9%となっている。

最後に、やおうえるかむコモンズの知名度について、「聞いたことがない」が65.1%で最も多くなっている。続いて、「名前は知っている」が17.5%、「よく知っている」が4.0%となっている。昨年度は、「名前は知っている」が12%、「よく知っている」が9%だったので、昨年度と比べると、「よく知っている」が少し減っていて、「名前は知っている」が増えているが、合計は同じくらいである。

次に、まちかどライブクリエイションについて、全13会場で回収数は365人であった。

年齢については、「40歳代」が24.1%で最も多い。ただ、会場によって来られた方の年齢構成は違っている。

性別については、「女性」が74.5%で、お住まいについては、「八尾市内」が58.9%である。昨年度は「八尾市内」が76%だったので、八尾市外の方が増えている。

会場別で見ると、萱振御坊 恵光寺や茶吉庵は八尾市内から来られている方が多く、地域共生空間つながりや近鉄八尾駅前噴水広場は、「大阪府内」から来ている方が多い。

これはもちろん、出演者によって変わってくるところもあるが、会場によって来やすさやこういった人が来るかという特徴があるということを、今後、反映していく必要がある。

このイベントを何で知ったかについて、「家族・友人・知人に聞いて」が40.5%で最も多く、「その他」が24.4%であるが、こちらも出演者に聞いてという話も多いので、ほぼほぼ口コミによるところが大きい。

次に「Instagram」が15.1%となっているが、年齢別で見ると、10代、20代、30代が15%より少し多い結果となっており、昨今の流れだが、若い人ほどSNSの中でもInstagramを使っているということが見えてくるので、今後も、こうした広報手段を積極的に使っていく必要がある。

ご来場いただいた日程・会場については、新田ゼラチンが23.6%で最も多くなっている。

イベントの満足度については、「非常に満足」が47.9%、「満足」が45.8%で、合計で9割以上の方々に満足していただいた。昨年度と比べると、昨年度も合計は約9割だが、「非常に満足」が39%だったので、今年度は「非常に満足」が9ポイントほど上がっている。

今後も八尾市内でこのような芸術文化の機会があれば、鑑賞・参加したいかについては、88.8%が「鑑賞・参加したい」と回答している。

最後に、やおうえるかむコモンズの認知度について、「聞いたことがない」が45.5%で最も多くなっている。続いて、「名前は知っている」が23.8%、「よく知っている」が19.2%となっている。昨年度は「よく知っている」が10%、「名前は知っている」が17%なので、「よく知っている」が2倍弱くらいに増えており、「名前は知っている」も増えているので、まちかどライブクリエイションでは認知度は増えている結果となった。

■アートコーディネーター養成講座（資料1のP2，3）

5月1日から7月27日にかけての基礎編のあと、秋のまちかどライブクリエイションでの実践編に取り組んだ。

受講生の皆さんには、実践編として、本当に様々なことに挑戦していただいた。自ら企画し実践する人、会場のボランティアスタッフとして参加する人、リーダー、出演者と地元企業をつなげる人等、受講生のうち半分以上の方に、まちかどライブクリエイションの中で何らかの活動を行っていただいた。2月23日に修了式を行い、令和6年度の講座は終了した。資料には、受講生の感想やコメントを掲載している。

今年度は昨年度より会場が増え、受講生の皆さんの企画を実現するための選択肢を多く設定することができ、また、萩原さん、村政さんをはじめとする推進会議メンバーの寄り添いと、各会場のリーダーの皆様との連携もうまくいったことで、スムーズに実践編に進むことができた。

令和7年度も引き続きアートコーディネーター養成講座を実施する予定であり、芸術文化で八尾市を盛り上げたいという人を増やしていけるよう、来年度も推進会議メンバーと連携しながら、講座を運営していきたいと考えている。

■ポータルサイト（資料1のP4）

現在、ポータルサイトの登録者、登録店舗は少ない状況ではあるが、先日開催した「きんやおマルシェ」の出演者や出展者への声掛けにより、徐々に登録者が増えているところである。引き続き、まちかどライブクリエイションの出演者等への積極的な声掛けにより、登録者、登録店舗を増やしていきたいと思っている。

やおうえるかむコモンズ推進会議の主な取り組みについては以上である。

藤野会長

審議会の使命としては、事業について評価、検証することが大きな役割だ。八尾市は推進会議と審議会の二重構造をとっており、実施主体である推進会議メンバーが、一部、審議会の委員と重複している。

まずは、推進会議のメンバーではない委員の皆さんから、少し離れた目線でこの1年間の事業について、ご意見をいただきたい。

緒方委員

例えば11月下旬（2024年11月24日（日））に実施された「八尾妖怪スタンプラリー in 恩智中町」は、地域の隠れた魅力を再発見することができた。普段見過ごされがちなスポットを巡る中で、新たな魅力を発見することを楽しむこともできた。特に、茶吉庵周辺の店舗では、お店の中にアート作品が展示されているので、そのお店の中に入ること、地域文化に触れる機会もたくさんあったと思う。

地域の人たちのイベントへの積極的な関与は、店舗の認知度向上に大きく貢献し、普段は関わっていなかった層への認知拡大ができ、マンパワーによる情報拡散の効果が明確に確認できたと思う。

また、高校生など若年層を支援する機運は高く評価できる一方で、八尾に根付く文化や芸術への関心を高める環境整備には、なお課題が残る現状があると思う。例えば、高安能をはじめとする地域固有の文化や芸術に触れる機会が、一般市民にとって十分とは言えず、その魅力が十分に伝わっていない可能性がある。昨今の様々なイベントにおいても、地域の文化や芸術が十分に組み込まれていない側面があり、今後の重要な検討課題であると考えられ

る。

藤野会長

それは伝統芸能や文化財ということか。

緒方委員

そうだ。音楽や若者のエネルギーを活用したイベントが盛況であることは評価できる一方、八尾が誇るべき文化や伝統芸能が、地域社会において十分に認知されていない現状は改善すべき点と考えられる。これらの貴重な文化資源を活性化するためには、市民がイベントや日常で触れることができるような工夫が必要だと思う。

八尾市外の他の自治体では、地域文化や伝統芸能を積極的に活用し、経済効果に繋げている事例が多く存在する。八尾においても、既存のイベントを文化発信の機会と捉え、伝統芸能の要素を組み込むことや、新たな文化イベントの企画を通じて、地域内外への魅力を高めるべきだ。寺内町をはじめとする地域での活動は行われているとしても八尾市全体として、文化資源の重要性を認識し、資源の重点的な投入と連携強化を図る必要があると考える。

藤野会長

例えば、しおんじやま古墳や歴史民俗資料館との連携が見えない。

緒方委員

しおんじやま古墳や歴史民俗資料館といった主要な文化施設から地理的に離れており、八尾市内中心部からも奥まった位置にあるため、地域住民であってもその存在を意識しにくいものだと思う。

文化発信という観点からは、そのような場所もとても重要な資源であり、歴史を紐解けば、人々の心を揺さぶる魅力的な要素を有している可能性がある。しかしながら、現状ではその価値が十分に可視化されていないように思う。今後の地域文化振興においては、これらの潜在的な文化遺産に焦点を当て、その魅力を積極的に発信していくことも重要になると考えられる。

松井委員

時期が11月・12月に集中しており、私も演奏者として忙しい時期で、参加が難しかった。

その中で、初めて茶古庵を訪れ、歴史を感じる場所で新しい芸術や、その日はクラシックのコンサートもあり、古典音楽を楽しめた。老若男女問わず、いろんな世代の人が同じものを見て喜ぶ、そういう空間があることが素晴らしいと思った。

ラインナップを見ると、高校生にも良い経験になるし、アーティストの活躍の場になるような楽しいイベントが多数並んでいる。反面、私自身がクラシックの人間なので、もう少し古典のものが発表の場にも出てくると良いと思う。西洋音楽は人前に出るレベルで、アマチュアでやっていくのはなかなか難しい。人前に出てくる時点で一定のレベルが担保されると思う。文化芸術祭をめざしていく中で、西洋音楽を外すのは難しい。

もちろん、プリズムホールは日本の中でもトップクラスの公演を多数されているが、ホールを離れて、ホールに来ない人へ届けるのがまちかどライブクリエイションだと思う。

まちかどにプロフェッショナルな音楽を届けるのは、ハードルの高いことではあるが、一部の出演者、一部のイベントでもよいので、ラインナップに西洋音楽の出演者を入れてみてみてもいいのではないかな。

大久保委員

業務協力に関わっている立場だ。推進会議の皆さんや市役所の方が実戦部隊でやってらっしゃるのをみせてもらったり、当財団の職員も協力させていただいている。

今回、アートコーディネーター養成講座の受講生の感想に心打たれたし、可能性を感じた。

というのも、プリズムホールで色々な施策を展開する際には、政策的にターゲットと分野を定めて実施しているため、すべてを網羅できない中、やおうえるかむコモンズに来られる方と我々がアクセスしている方が少し違っており、我々がアクセスできていない方にやおうえるかむコモンズでは参加いただいている。

その一つに、アートコーディネーター養成講座の方々がいる。受講生の感想で、自己実現できてすごく嬉しかったとか、実践の場まで用意されていたので、相談しながら実現できてよかった、初めての販売ができてよかった等、私達ではアクセスできない所にこの講座がアクセスできていることに感動した。また、皆さんポジティブな感想だった。

可能性を感じたのは、回を重ねれば、コーディネーターの1年生、2年生、3年生と、年を重ねるごとにスキルが上がり、彼らが市民プロデューサーとして養成され、今後もしかしたら、プリズムホールが市民プロデューサーと組んで、例えばイベントをするにあたって、技術やスキルがないとできないようなことまで、この方々がやることができるかもしれないし、必ずしもプリズムホールでなくても、いろんな所に行ってやれる。

私達ちも一緒にすることによって、相乗効果が出ると思う。私たちが知っていることを、実践編で、講座の3年生くらいの方と一緒にすることによって、ホールには舞台技術者や、アートマネージャー（プロデューサー）もいるので、アートコーディネーター養成講座とは異なるスキルが講座にプラスアルファされるかもしれない。そうなってくると、アートコーディネーター養成講座の受講生がどんどん巣立っていくことにすごく可能性を感じた。発展させていく素地が生まれていっているということだ。

まちかどライブクリエイションについては、広がっていくことの良い面と、手が回らないというデメリットがある。広がりが増えてくるとしたら、広げるに当たっての参加の条件をどうするか。現時点でもいくつかの企画についてはひらいマルシェのような既存イベントにやおうえるかむコモンズの名義を付けたものであり、そういった「コラボ型」にすれば実施数は増やせるが、名義付けの条件もどうするのかという整理が必要。

推進会議が全部のものに関わらないといけないのか、部分的に関わりながらもうまくやれるのか。そのあたりのハードルを調整していくと解決の糸口が見えて、うまく広がるのだと思う。

ただ、始まったばかりなので、市民にはあまり知られていない。イベントをやりたい、私も出たい、やおうえるかむコモンズって聞くけど、何？という声が出てきている、いわゆる萌芽の状態だ。今後、展開するに当たっての条件やハードルについて、何かしらの整理は必要でどう構築していくか。今、発展しているからこそ大事な点だと思う。

玉置委員

小学校なので、直接やおうえるかむコモンズには関わっていないが、報告を聞いていて、今後どう広げていくかが課題だと思う。学校も何かやるときに、参加者を募る際に地域の会議に入っていくが、どう広げていくか、周知していくかがすごく課題になっている。

今回、すごくたくさんイベントをやっているが、周知の仕方として、今後どういった展開

ができるのかを課題として持って、広げていく方向で考えていったほうがいいと思う。

萩原委員

色々な取り組みをしてきたが、まずは八尾市芸術文化基本条例があり、条例に基づいて取り組んできた。芸術文化のすそ野を広げる、市民が参加しやすい、鑑賞しやすいことを絶えず意識しながら、推進会議を引っ張ってきたつもりだ。

その中で、緒方委員がご指摘の、文化についてまだターゲットが当たっていないということだが、例えば、高安能は歴史ある活動をされている中で、我々は条例に基づいてやっているとはいえ新参者であり、いきなり一緒にやりましょうと言ったところでなかなか一緒にいただけないところがある。市は同じ部署が管轄されていることもあり、今後、高安能の方々の活動とどうコラボというか、一緒にいただけるかを考える必要がある。

また、松井委員がおっしゃったクラシックについて、一般の方々にはなかなかハードルが高いが、どうハードルを落として、聞く機会、見ていただく機会を増やしていくかということこそをすごく意識していく必要がある。今年度も、茶吉庵では若干だがトライさせていたが、今後も意識してやっていく必要がある。

一番の課題は周知徹底だ。やおうえるかむコモンズや、やっていることをもっと知ってもらう必要があるし、知ってもらわないと広まっていけない。例えば、チラシについて、家族で参加できるイベントなら、学校でも生徒に配っていただけると、近くであれば家族で参加することができ、子どもたちが文化や芸術、アートに触れる機会が増えるだろう。

まだまだ始まったばかりだが、課題はいっぱい持ちながら取り組んでいる。

大久保委員がおっしゃったように、色々な人とのコラボは推奨したいが、そのルール作りはきちんとしていかないといけない。何でもかんでも良いわけではないが、一方でやりたい人にはどんどん来てもらいたい。4月からの新たな体制について、そのあたりはみんなと共有しながら、より発展できるようにしたい。

2028年のまちかど国際芸術祭が1つの大きな目標だ。今年度の万博、まちかどライブクリエイションを重ねながら、2028年がゴールではなく、大きなリスタートの場所になると思うので、そこに向けて、階段を1段ずつ登っていくようにしたい。色々ご指摘いただき、気づかせていただいて、また取り組んでいくことを繰り返しながら、進めていきたい。

鈴木委員

私が一番関わったのはアリオ八尾光町スクエアのイベント（高校合同文化祭）だ。

本質とは異なるが、出演した生徒が私の所に来て、イベントをするためにはどうすればいいのかと聞かれた。音楽をやっていて、みんなとイベントをしたいが、どうしたらいいかということだった。

これにはすごく嬉しく思うとともに戸惑った部分があり、そこで、これは教育の一環なのだと気がついた。僕たちとしては、何かイベントをするときは、エンタテインメントに振るため、何でも華やかに見せようとか、歴史のあるものをしっかり見せようとか、良いところばかりを見せようとするが、裏方もよく見られていることが分かり、教育の一環としてやる素地もあると今回気づいた。

まちかどライブクリエイションで良かったのは、こういうイベントをしても、裏方やイベントをしよう、音楽のPAをしてみたいと思う人たちが一定数いることが新鮮で嬉しかった。

一方、エンタテインメントに振りすぎると見失うものがある。例えば高校生のバンドは、自分たちが文化芸術を発信していると思っているのかどうか。文化芸術を発信しているという気概を持ってやってもらいたい。それが伝わるような活動ができればと思う。

(2) 八尾市文化振興事業団の主な取り組みについて

資料4に基づき、八尾市文化振興事業団から説明を行った。

北芝氏

本資料は、当事業団が実施する事業について、基本計画の施策にあてはめて作成した。チラシを作成する取り組みについては、どの施策に当てはまるのかチラシに明記するようにしている。なお、3月9日時点の情報で作成しているため、実施が完了しているが、資料上は未実施になっている事業もあることをご了承いただきたい。

主だった事業についてご説明する。施策3 芸術文化を深く味わう機会の提供として、①鑑賞機会の提供について、今年度は宝くじ文化公演の採択や、相手方からの共催の希望を受け実施する名義主催事業の本数がかなりある年だった。そのため、鑑賞機会の提供の事業が増えており、様々なジャンルで鑑賞機会を提供できた。

②活動機会の提供、活動の支援について、第1回の審議会でもご説明したプリズム・アート&シアター・プロジェクトの事業を計8つ実施した。そのうち、地域アーティストや市民の企画実現の場、プリズムホールであなたのアートを輝かせよう！については、現在も実施途中であり、集計結果は示していないが、約4,200名の合計参加者数を見込んでいる。

それ以外にも、プリズムカフェライブ等で記載のある八尾人形劇連絡会や八尾読み聞かせの会、八尾出身の若手落語家の落語会、藍染保存会の展示など、様々な八尾の団体に発表の機会が提供できた。

次に、施策5 芸術文化を通じた子どもの育みとして、①学校等と連携した芸術文化教育の推進の部分で、親と子のはじめての演劇体験 プリズム・チャームプロダクション・シリーズ「ばーちゃん」という演劇公演について、11校の小学5年生、1,000人弱を招待した。

さらに、子どもに鑑賞機会をプレゼントということで、鑑賞格差の解消のために、子どもの笑顔応援プロジェクトとして、一般の方からご支援いただける方を募り、子どもたちを招待した。こちらのプロジェクトについては、32名のご招待という結果となった。

全体の入場者数は集計できていないため、次回の審議会でお示しさせていただきたい。

その他で申し上げますと、社会見学 ようこそ！プリズムホールということで、これまで施設として見学を受け入れたことはあるが、舞台や芸術文化という観点で色々なことを見ていただく、体験していただく形で、永畑小学校の78名の皆さんにご参加いただいた。

施策6 芸術文化を通じた地域の活性化として、単なる買取公演ではなく、当館オリジナルの演出、その他工夫を凝らした公演等を実施した。吉田玉男さんの人間国宝認定の記念公演や、オリジナルの脚本を作っていただいた声優朗読劇、LEOの箏リサイタルについては、三曲協会に所属されている峰の会の先生に、箏の体験の機会をコンサート前にロビーで実施していただくなど、オリジナルな演出をプラスして実施した。

最後に、施策7 芸術文化によるまちの魅力の発信として、①八尾の誇りとなる芸術文化の継承・発展・創造について、万博でも披露する八尾が誇る伝統文化である高安能関係、並びに河内音頭の普及、継承に向けての取り組みを数多く実施した。

こういった内容で、今年度もほぼすべての施策に当てはまる事業を実施したことをご報告する。

藤野会長

このように整理してくださったことについて、どこの自治体でも当たり前だと皆さんは思われるかもしれないが、ごくごく稀なことだ。せっかく条例や基本計画を作っているながら、また、審議会があるにもかかわらず、市町の中核となる文化ホールの事業を施策に当てはめて整理いただくことはあまりない。

逆に言うと、事業団には理事会や評議会があるはずだが、その理事や評議員は本市の計画をご存知なのか。

大久保委員

私どもの役員会では、指定管理の仕様書、条例と計画、そしてミッションの3つの筋道で毎回説明し、私達の事業が条例や計画にどのように紐づいているかを説明している。

藤野会長

私は感激している。今の北芝氏の説明で、何かご意見、ご質問はあるか。

萩原委員

プリズムホールが、条例に基づいて本丸として、王道のところをこれだけやっておられることが素晴らしい。プリズムホールあつての我々の活動だ。プリズムホールの活動、そしてやおうえるかむコモنزの活動があつて、条例が生かされると感じた。

藤野会長

細かいところで恐縮だが、宮田大さんのトークライブは、定員超えしているがどう対応されたのか。

北芝氏

施策3の①鑑賞機会の提供のところで、プレミアムトークライブについては、宮田大さんがビールがお好きということで、せっかく夜の時間帯にやるので、テーブルを置いてビールを飲みながら聞いてもらおうという企画だったが、用意したテーブル席50席がすぐに満席となったので、テーブルのない椅子だけの席を30席追加して実施した。

(3) やおうえるかむコモنز推進会議の体制の再構築について

事務局から、資料5に基づき、説明、報告を行った。

前回の審議会でも少し議論いただいた推進会議の体制について、現状は、幹事と会場のリーダーといった中心的な役割を担って頂いている方が異なっており、幹事会が機能していないという課題がある。この間、推進会議メンバーで新しい推進会議の体制について検討してきたことをご報告する。

左側の「参画のはしご」は、今年度のアートコーディネーター養成講座で、講師の中本正樹さんから話しいただいた「四季文化館みの〜れ」での市民参画の関わり度合いを可視化した仕組みを、やおうえるかむコモنز推進会議に置き換えたものである。

参画のはしごには1～8の段階があり、上に行くほど主体的で、中心的な役割を担う。どれがいい、悪いではなく、来年度はどの程度の関わりができるのか、役割分担を明らかにするもので、それぞれのライフステージ等に応じて、役割が変わっていくこともある。この研

修での参画のはしごをもとに、推進会議の在り方について検討してきた。

右の図は、令和7年度のやおうえるかむコモンズ推進会議を図式化したもので、来年度の関わり度合いに応じて参画のはしごを提出いただき、幹事、会員を決めていくこととしている。参画のはしごで、上2つのプロジェクトリーダーや、会場のリーダーとして主体的に関わっていくと答えていただいた方に幹事になっていただき、その下の4から6番目の段階、会議に参加して意思決定に関わるのところから、運営スタッフや出演、出展者、職員コモンズサポーターで関わっていくと答えていただいた方を推進会議の会員として、会議の運営を進めていきたいと考えている。

市とプリズムホールについては、幹事会のメンバーではあるが、他の幹事とは異なる役割を担うことから、芸術文化専門幹事、行政担当幹事という位置づけとしている。また、やおうえるかむコモンズにおける市民・市・プリズムホールの関係は三輪車に例えることができ、前輪である市民の活動を、市とプリズムホールが後輪で支える形にしていきたいと考えている。

次のページは、推進会議の新たな規約案から、一部の項目を抜粋したものである。

会議の目的は、これまでと同様、八尾市の芸術文化を振興し、市民の芸術活動及び文化活動のすそ野を広げるために活動するものとしている。

会議の種類は、全員が参加する全体会、会長、副会長、幹事が参加する幹事会、必要が生じたときに開催するプロジェクト会議の3つを考えている。

会議の所掌事務は、これまでと同様である。

役員の任期については、1年もしくは2年としており、個々の部分は近日中に開催する予定者幹事会で話し合いたいと考えている。

役員の選出は、幹事の中から選出することとする。幹事は、立候補または推薦を受けたものとする。推進会議のメンバーにも自分がどの立場で推進会議に関わっていくのか、一人一人に提出いただいており、来年度の予定者幹事は14人である。

今回、新たに創設したのが、ベラーターという役職であり、こちらは、助言者、アドバイザー、顧問という意味のドイツ語で、専門的見地、経験から、推進会議への指導、助言をしていただく。本審議会会長の藤野先生と人形浄瑠璃文楽の人形遣いで人間国宝の吉田玉男氏に就任いただくことで了承を得ている。

やおうえるかむコモンズ推進会議の体制の再構築については以上である。

萩原委員

前回の審議会で幹事会を再構築したいと相談した。この間、色々な方と知恵を出し合い、意見交換してきた。条例に基づく推進計画、その計画を推進する推進会議をいかに継続させていくかが大事だ。そのためには会場リーダーや幹事の統一性、活性化させるには一人の人が同じ役職にずっといるのではなく、その年ごとで役割を入れ替えることや、会長も最長6年で入れ替えていくことも大切だ。

藤野先生にも相談し、ベラーターという新たな役職に就いていただく。組織として活性化し、継続しながら、2028年が終わりではなく、さらに発展するためにこのような提案をした。皆様の意見を反映したいし、この幹事会の中で、推進会議に入りたい方にどのようなルールで入ってもらうか、会員にももっと入ってもらいたいが、そのルール作りも再構築し、

多くの方に入ってもらえるようにしたい。

関わり方も1年だけ頑張ろうとか、今年はやるけど来年は厳しいという方もいると思うので、より参画しやすい仕組みにしたい。やれるときに一緒にやる組織にしたいと思ってる。ご承認いただければ、4月から幹事会を開催し、全体会で揉んでいくようにしたい。

藤野会長

この間、私がなかなか参加できず、意見を述べる機会が少なかったが、悩んで悩んで、知恵を絞ってここまで持ってきていただいた。これから始まるが、まずはここまで来て良かったのではないかな。

コモンズとは何かという話がまだ収まっていない中で、新たに「ベラーター」という言葉も出てきたので、八尾って何なんだと言われそうだが、これも全国に広めていこうか。

緒方委員

少しもやもやしていることがあり、図式構造的に町内会に似ている気がする。町内会は特定の人に責任を押しつける傾向がある。そのリスクについて、例えばコモンズの特定のメンバーに全部を丸投げされる可能性はないのか。

萩原委員

それについては心配ない。というのも、幹事については立候補制だ。やりたいという人が14人集まっている。

緒方委員

立候補制であれば問題ないと思うが、さらにすそ野を広げ、文化的交流を深めるには、多様な企画・イベントが必要だ。多くの人が参画できる状況を作り出す推進力が今後重要になるだろう。

本年4月以降、速やかに活動を拡大しなければ、一部メンバーによる尻すぼみに陥る可能性があることを危惧する。

萩原委員

まさにその通りで、特定の人に押し付けられないように、組織を作っていくといけなと思っています。やる気のある人たちに仲間になってもらい、一緒にやっていくという構図にしたい。

緒方委員

PA(音響技術)や舞台照明の現場に興味をもつ高校生にとって、機材に触れ技術を学ぶ経験は、座学だけでは得られない実践的な学びの貴重な機会となると思う。

萩原委員

高校生にはコモンズサポーターという組織があり、OBも関わってくれている。コモンズサポーターで育った人が推進会議に入るとか、アートコーディネーター養成講座に参加した人が入ってくるとか、色々なところから、一緒にやりますという人に入ってもらいたい。

色々な会場があり、やりたいという若い人も多い。そういう人たちを巻き込み、入ったり出たり、出入りが自由な、1年ごとに組織が変わるような形でもいいと思っている。

緒方委員

その場にいる人たちの動きを見て、そこに自分が参加していないことが悔しいと思わせる環境づくり、見ている人が参加したくなるような環境づくりが必要だ。

萩原委員

来年は参加したいと思ってもらわないといけないし、一緒にやりたいと思ってもらえるような組織にしていけないといけない。

緒方委員

出演者はいくらでも手が上がるだろう。出演者のほかに、現場を作るための人間が必要になってくる。コモنزの活動を見て悔しいと思い、自分たちが参加することで、盛り上げるための点火剤になりたいという人を作っていくのがコモنزの力ではないかと思う。

萩原委員

草創期として、まずはコラボ型を意識している。既にイベントをされている方とお話し、そのイベントの中にどう文化や芸術の要素を取り込み、一緒にやっていただけるのか。企画されている方に積極的にお声掛けし、仲間に入っていただきたいと思っている。

また、ロコミ力も使いながら、ポータルサイトでも情報を発信し、市民の目に触れる機会を増やしていきたい。まだまだ目に触れる機会が少ないことは自覚している。メディアミックスで、SNSや紙媒体も活用し、やおFMさんや、ジェイコム河内さんとも協力しながら取り組むことが大切だと思っている。

藤野会長

今おっしゃったように、この2年間はコラボ型を意識した展開をしていただき、集客も中身も素晴らしい取り組みができたと思う。

コラボということで、もともと自主的、自発的、自律的に取り組んでいる人がいて、その人たちがつながったという今の状況があるが、もう一つ、委員からのご指摘にあったように、教育としての意味も大きい。

特に、高校合同文化祭はまだ手が掛かっているが、その中で高校生から、自分もやりたいという気持ちが出てくるという、いわゆる人財育成をやっている組織がコモنزである。つまり、次の世代や支え手を育てているのがコモنزであるということがすごく重要だ。仕掛けとして、高校合同文化祭やアートコーディネーター養成講座というのはすごく重要で、そうやって次の世代がつながっていき、その若い世代が自発的に、自分たちで作りたい、あるいは裏方をやりたいというふうに出てくるのが、一番、市民自治、市民文化につながってくるのだろう。そうではなく、行政に任せたり、あるいはお金で解決したりすると、市民自治につなげることは不可能だと思う。教育の観点、人財育成の観点は、このコモنزの活動にとって結構重要だと思う。

3. その他

資料6に基づき、ロゴマークの商標登録と、大阪・関西万博への出展について説明した。

まず、やおうえるかむコモنزのロゴマークの商標登録については、令和6年8月に出願し、登録査定がおりた。登録料を支払ったのちに、商標登録証が届く予定となっている。

次に、大阪・関西万博への出展については、文化・スポーツ振興課として3つの取り組みが決定している。

(1) やおうえるかむコモنز

令和7年5月18日(日)にギャラリーEASTにて、「やおうえるかむコモنزによる伝統と未来をつなぐ本気(マジ)で遊ぶ八尾の大人たち」と題して、万博プロジェクトチー

ムによる企画を実施する。

やおうえるかむコモンズ推進会議の中で、万博プロジェクトチームを立ち上げており、3月16日（日）にプリズムホールで、長さ8mの手のひらアートでらいおんサンを描いたり、キャンドルホルダーを作ったりといったワークショップを実施した。ここで作られた作品を万博会場であるギャラリーEASTに持って行き、展示する予定である。

また、サイバーやぐらについては、八尾のこども河内音頭大使とともに、来場者がサイバーやぐらの周りで河内音頭の実演を楽しめるようにする予定である。その他、資料に書いてあるように、見て、体験して楽しめるような、様々な八尾の魅力を堪能していただける企画を検討中である。

さらに、万博プレ企画として、4月13日（日）に平井製作所で開催されるひらいマルシェにおいて、サイバーやぐらや8mの手のひらアートをお披露目することを検討中である。

（2）高安能

令和7年5月14日（水）にポップアップステージ南にて、令和に蘇る能「綱」万博特別公演を実施する。昼間にワークショップ、夕方から能公演を実施する予定である。

（3）河内音頭

令和7年7月27日（日）にEXPOアリーナ「Matsuri」にて行われる「大阪の祭！真夏の陣 交流盆踊り/次世代パフォーマンス」に出演する。

萩原委員

サイバーやぐらというのは、100インチ（審議会後、85インチに変更したことが判明）のモニターが四面に貼られており、そのモニターにまちかどライブクリエイションや高校合同文化祭の様子、河内音頭のレクチャー等を流す予定である。

また、これも予定ではあるが、人形浄瑠璃文楽の吉田玉男さんから「2028年のまちかど国際芸術祭を応援しています。」というようなメッセージをいただいたり、八尾の紹介をしたりすることもある。

もちろん、外国の方もやぐらの周りで一緒に河内音頭を踊るようなことができるのがサイバーやぐらである。

らいおんサンの手のひらアートについては、先日プリズムホールで、子どもから大人まで、みんなが手形で絵を描いたのだが、みんなで描いた絵が会場に飾られる。当日は足場の補強もしっかり実施することになっている。

フォトスポットは花綺者（かぶきもの）の山田廣之信さんが担当する。お花を生けるところがフォトスポットになるように考えておられる。また、その周りにキャンドルホルダーを配置し、お花の周りをLEDキャンドルが照らしていくことになる。

ひらいマルシェの開催日である4月13日（日）は万博のスタートの日であり、その日にやおうえるかむコモンズの万博展示もスタートするわけだ。

市民が関わった作品が万博に行く。なかなか、全市民に告知が行き渡るようにはなっていないが、SNSなども活用しながら地道に告知しているところだ。

4. 任期の振り返りについて

藤野会長

任期としては今回が最後だ。委員の皆さんから、2年ないしは1年の振り返りをそれぞれいただきたい。

鈴木委員

あっという間に2年間が過ぎた。色々な活動を見ることができ、これからしっかり活動を応援したいと思う。

一つだけ心残りなのは、2年の間に消えている文化芸術として、僕らも肌で感じているものがある。例えば、「萩原朔太郎記念とをるもう賞」や、「河内どんこう」、河内音頭の中でも伝承音頭など、今では廃れているものもある。そういう先細っている伝統文化があるので、それらをもう少し拾えるといいなと個人的には思う。消えつつある活動や文化芸術にも光が当たるようなことを、今後していっていただければと思う。

萩原委員

審議会と推進会議の両方を兼任している立場であるが、八尾の芸術文化に携わることができてよかったと思っている。引き続き推進会議には関わっていけると思うので、八尾の芸術文化の一助となる取り組みを続けていきたいと思う。

玉置委員

八尾市の文化芸術を守り、進めるため、このような審議会があるということを知れたこと、また、子どもたちに毎日関わる者としては、子どもたちが近いうちに、八尾市の文化芸術を支えるような人に育って行けばいいと思う。

審議会を通じて八尾市の取り組みを知り、それを学校の中で子どもたちに伝えていけたらいいと思う。

大久保委員

今後もプリズムホールとしては、私自身に加えて北芝や他スタッフともども仕事に関わることも随分あると思うので、その際にはよろしくお願いします。

松井委員

この間、たくさんのイベントがあり、私も参加させていただいたりしながら、八尾市で行われるいろんな行事を見てきた。行政の方を含め、人生の先輩方が楽しそうに目を輝かせて、色々なアイデアを出してくださっているこの状況がすごく嬉しかった。

クラシック畑にいとちょっと暗くなることや、予算がないと思うことも多々あるが、ここでは、予算がなくても楽しいことを、そして、すそ野を広げよう、見に来てくれている人たちを育てようという思いをすごく感じたし、委員としてそのような姿を見させていただいたことに本当に感謝している。また、このまちで子どもたちを育てている母親としてもすごく誇らしい。

演奏者、表現者の一人としては、このまちのために自分に何かできることがあれば、協力させていただけたらと思うし、力になれたらいいなと心から思う。

緒方委員

この2年間はあっという間だった。当初は、コモンズをはじめ、様々なイベントや活動が萌芽の段階だったが、この2年という期間を経て、その勢いは顕著となり、更なる発展が期待される状況にまで広がってきた。

文化芸術においては、新たな活動の活発化に加え、潜在的に埋もれている要素を掘り起こす試みや、文化芸術活動の舞台裏を支えたい、そしてそういった場所で働きたいと希望する高校生をはじめとする若い世代の出現は、単なるプレイヤーの増加に留まらず、多様な人々との協働による新たな価値創造への期待を高めていると思う。

だからこそこの2年間は、そのための重要な第一歩であったと理解している。

今後、新たな審議会においては、大阪関西万博や八尾国際芸術祭といった大規模な催しが控えており、より多角的な視点からの考察が求められる。審議会など議論ができる場所を通じて、建設的で創造的な話し合いが深まり、より豊かな文化芸術の創造の発展につながっていくと信じている。

藤野会長

最初に関わり始めたのが5年以上前で、コロナ前だったが、当時は神戸大学の教員で、八尾市の文化資源を知るために、ゼミ生も一緒に市内のバスツアーもさせていただいた。

その後一番忙しかったのは、条例と基本計画を一気に作った時だ。コロナのど真ん中で、分科会やワークショップを入れると、2週間に1回は豊岡から八尾に通っていた。

その間にプリズムホールの改修があった。今思うと本当に良い時期に改修が終わった。うん十億円というすごいお金だが、今はその倍はお金がかかる。他の自治体の文化施設の改修や建替にずいぶん関わっているが、ことごとく入札不調になっているし、市長・県知事が交代したために実施設計までできていたのにひっくり返ったものも、自分が関わっているものだけで3件ある。

これから大規模改修が控えている近隣の施設で言うと、尼崎市のアルカイクホールは減築も必要でものすごく手間がかかるし、改修だけで100億円規模になる。なんと5年間閉館する予定で、その間に財団が潰れてしまうのではないかと危惧している。びわ湖ホールは、筑後25年が経過しており、大規模改修に70.3億円がかかり、来年7月から20ヶ月閉館だ。

国立劇場については、10年は再開できないという話もあり、本当に文化インフラが危機的な状況が全国を襲っている。大都市を含め、至る所で演奏場所、上演場所がなくなってしまう。その中で、プリズムホールは本当にうまくやったと思う。本当に良かった。

2つ目に、先週末、八戸市で日本文化政策学会の全国大会があった。八戸市は人口20万人の地方都市にもかかわらずすごく元気で、中心市街地が実に活性化している。まず、八戸ポータルミュージアム「はっち」ができ、これは近代的な公民館であり素晴らしい複合施設だ。それから、市立の本屋や、2021年には市立の美術館ができたが、これらの施設が徒歩5分圏内にある。しかも、横丁文化があり、学会の懇親会の後に二次会に行ったのだが、毎晩1時、2時まで飲んでもまだまだ元気だ。このような元気な地方都市があることにびっくりした。豊岡市は色々な面で注目はされるが、豊岡ではありえないくらいの元気さだった。

その八戸での文化政策学会で、色々な人から「八尾市は今頑張っているね。」「コモンズがうまくいってるんだね。」と声をかけられた。すごく嬉しい。文化的コモンズ概念は10年くらい前から出てきて、それを広げる取り組みに私も一役買ってきたが、実際に文化的コモンズの仕掛けがうまくいっているところはそんなにはない。そうした中で八尾市は仕掛けを作ること基本計画の一番に置いて、実践してきた。それが実装されつつあることが、全国から注目されている。

八尾市の計画を作ったしばらく後に、京丹後市でも条例を作り、審議会を作り、基本計画

を作るお手伝いをしたが、八尾市の経験を活かして、会議体については、審議会と推進会議の二重構造にこだわり、絶対に審議会と推進会議を作ってもらようよう強調した。その結果、二重構造でこの１年半くらい動いているが、残念ながら市の関係者から相談があり、二重の会議は負担が重すぎると言われた。推進会議は盛り上がりがなく、自発的、自主的な思いを持って参加する人がいないので動かない。市が熟練したアートマネージャーを雇い、芸術祭も始めているが、全体として市民の盛り上げがないので、どうしたらいいかという相談だった。八尾市との違いはどこにあるのかと言われたが、やっぱり飲み会ではないか。八尾の人はノリがいいし、インフォーマルなところでも色々盛り上がって意見交換できている。河内の人はノリがよく、僕もとても楽しませていただいているし、勉強になった。でも、同じことが他のまちではなかなかできないのだなと感じている。現時点では、成功事例や先端事例になりつつあるが、どこのまちも八尾の真似をすれば同じことができるかという、同じ仕組みを作ってもそのように動かないこともある。本当に文化政策は難しく、正解はない。そうすると、仕組みではなく、この人がいたからという属人的な話になってしまう。

プロ、アマのアーティストを含めた市民と行政、文化振興事業団のコラボレーションがとても親密にできていることが一番大きな力ではないかと思う。組織を作るというのは、本当に簡単ではないと思う。

私は今の大学（芸術文化観光専門職大学）を３月で卒業する。神戸大学で働きながら、ボランティアで当大学の設立準備から関わってきたが、準備に４年間かかり、今年、完成年度と言って、初年度に入学した学生が３月で卒業する。人生の中で８年間のプロジェクトというのは、相当大きいものであり、開学時は文部科学省の設置認可が必要で、とても大変だった。設置認可が降りたときは、夢じゃないかと思うくらい嬉しかった。ただ、ふたを開けてみると、いばらの道で、大変なことも多く、心身ともにボロボロになったので、まずは半年くらいリハビリをしないといけないと思っている。

新たな組織を作ろうとすると、組織文化の違う人が集まり、学生も全国から集まるので、非常に個性的なメンバーが集まってくる。前任校でやってきた経験がなかなか通用しない現状に直面した。すべてにおいて正解はなく、個別具体的にやっていくしかないのだろうと思う。

ただ、その時に、自分は一人で頑張っている訳ではなく、仲間がいるんだと思えると心が折れずにやっていけるので、そういう良い関係がこのまち八尾ではできているのではないかと思う。

随分長く話したが、今期の総括としてそんなことを考えた。

４．閉 会

・文化・スポーツ振興課 杉島次長よりあいさつ。

委員の皆様におかれては、お忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。本日をもって今年度の審議会も終了ということになる。次年度以降も委員に就任いただく方もいるし、市民委員の緒方委員、松井委員におかれては時間があれば、推進会議への参加をご検討いただきたい。

私事だが、昨年４月に人事異動で文化・スポーツ振興課の課長に就任し、文化のぶの字も分らない状態だったが、芸術文化の発展に当課の４名で関わらせていただいたことは、と

でも嬉しく、プリズムホールの指定管理者である八尾市文化振興事業団の職員の皆様のご協力もあり、良い関係で取り組むことができた。

やおうえるかむコモンズ推進会議のメンバーもすごく熱心に、手弁当でご協力いただいている。アーティストや会場を無償提供いただく方もいて、八尾市は本当に温かい方が多いことをこの1年間で実感している。

引き続き、やおうえるかむコモンズの推進には精一杯取り組んでいきたいと思っているので、委員の皆様にはお力添えのほど、引き続きよろしくお願いしたい。

・最後に、事務局から会議についての事務連絡をお伝えし、審議会は終了。